



見能林駅の線路を越えた少し先、24  
8段の階段を上ると、地域一帯を見渡せ  
る小高い広場があり、奥には忠魂碑がひ  
っそりとたたずむ。この忠魂碑の周りを  
毎年清掃しているのが、「石仏クラブ」  
の皆さんだ。昨年12月8日、階段の落ち  
葉を掃き、木の枝をせんていし、広場の  
草を刈った。「階段が急やけん、清掃す  
るんも大変なんよ」。そう言いながらも、  
表情は晴れやかだ。

住民の転出入が多い市街地ということ  
もあり、地域のつながりが希薄だった石  
仏地区。まちをもっと盛り上げたいと、  
地元の有志が一念発起して、昭和54年に  
「石仏クラブ」を発足させた。活動は忠  
魂碑の清掃奉仕に加え、町内美化活動や  
小学校運動会のお世話など、多岐にわた  
る。第18代会長を務める森野秋佳さん  
(63歳)は、「皆で集まって行事に取り組  
むことで、親睦も深まっています」と話  
す。発足30周年に制作したお揃いのジャ  
ンパーが、その結束力を物語っている。



清掃奉仕を始めたのは、20年以上も  
前。きっかけは、それまで忠魂碑を管  
理してきた遺族会の皆さんの高齢化が  
進み、階段を上り下りしての清掃が難  
しくなったという話を聞いたことか  
ら。「何か地域に貢献したいという思  
いから、代わりに清掃するようになり  
ました」。森野さんはそう振り返る。「別  
に誰かに知ってもらわなくてもいい。  
ただ皆、この地域が好きだからやって  
いることなんです。今後はそれを引き  
継ぐ若者にも加わってもらえたら、う  
れしいですね」。

今ある遺産や景観を守るだけではな  
く、先のことも見据えている。忠魂碑  
前の広場は、万が一の地震発生時には  
住民の避難場所となるのではないかと  
そう考え、古くなった手すりや階段の  
修理も検討している。地域に伝わる遺  
産は、地域ぐるみで守り、活用し、そ  
して未来へと受け継いでいく。「石仏  
クラブ」が長年取り組んできた活動は、  
地域の理想的なあり方を体現している。